
ツバサ・クロニクル『Happy・Halloween』

蒼宮 那雪

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ツバサ・クロニクル『Happy・Halloween』

【Nコード】

N3553I

【作者名】

蒼宮 那雪

【あらすじ】

ツバサ・クロニクルの語られなかった世界。

少し早いハロウィン小説を投稿させていただきました。

「語られなかった世界」

「あれ？ 小狼くん、あれ、なんだろう？」

「はい？」

4人と1匹の旅の途中。たどり着いた場所はもう既に日が落ちかけていたので、今日のところはこの国に泊まって、明日移動しようという事になった。

争いや問題などは特にないらしく、小狼とサクラ、二人が食料の調達に出た街では、なにやらオレンジや黒で統一された装飾に身を包んでいる。

よく視ると、家の玄関先で何人かの子供が仮装して、集団で「Trick or Treat!」と叫んでいる。

「あれはハロウィンですね。」

「はろういん？」

「秋に行われるお祭りで、ああやって子供達がお化けに仮装して、お菓子を集めるんですよ。」

「小狼くんもやったことあるの？」

なんでも知っている小狼に訊ねると、やはり答えが返ってきた。その“お祭り”を小狼はやったことがあるのかと思い、そう訊ねると、小狼はいつものように優しく笑って答えた。

「見たことはあるんですけど……参加したことはないですね。」

「どうして？」

「その日、丁度、次の旅先へ移動する日だったので……」

「そっか。」

ゆっくりと歩きながら子供達を観察すると、どの子供もお菓子をもらえてとても嬉しそうに笑い、そしてとても楽しそうだった。

こっちまでなんだか温かな気持ちになってくる。

「あ、そうだ！」

「姫？」

突然駆け出すサクラに、小狼が戸惑っていると「ちょっと待ってて！」と言われたため、大人しく近くの店に入っていくサクラを見送る。

数分後。

「小狼くん！」

「はい？」

「Happy・Halloween！」

サクラはそう言って、振り返った小狼の口に何かを入れた。

ふわりと広がる優しい甘さに、口に入れられたモノの正体がクツキーだと分かる。

につこりと笑うサクラに、思わず照れたように顔を紅くして、小狼も笑い返しながら言った。

「ありがとうございます。」

（END）

（後書き）

わたしの好きなCLAMP作品のなかの、ツバサ・クロニクルの二次創作を書いたので、投稿させていただきました。短いですが、結構お気に入りの二次創作です^^

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3553i/>

ツバサ・クロニクル『Happy・Halloween』

2010年10月10日04時05分発行